

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.18

株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

● 第7期中間決算のご報告

“KAITEKIの実現”

チャレンジ!! KAITEKI

太陽光に近い白色光で自然な色合いを実現

高機能白色LEDで“KAITEKI”照明事業をグローバルに展開中

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス

三菱ケミカルホールディングスの概要

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第7期中間期のご報告

平成23年4月1日 ▶ 平成23年9月30日

株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げます。

当上半期（平成23年4月1日から9月30日まで）における日本経済は、震災の影響により依然として厳しい状況にある中で、サプライチェーンの立て直しが進み、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、景気の回復傾向が見られました。

当社グループの当上半期の連結業績につきましては、その詳細は次頁以下に記載の通りであり、ヘルスケア分野は概ね堅調に推移いたしました。機能商品分野及び素材分野は震災の影響等により厳しい事業環境となり、売上高は1兆5,701億円、営業利益は956億円、経常利益は928億円、当期純利益は375億円となりました。このような状況等を踏まえ、当期の中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。

当社グループを取り巻く事業環境は、震災の影響等により厳しい状況となっておりますが、当社グループは、中期経営計画

「APTSIS* 15」に沿って、事業会社間の協奏によるグループ総合力の強化、財務体質の改善及びさらなる事業構造改革により体質の強化を図り、収益の向上にグループ一丸となって取り組んでまいります。さらに、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、「KAITEKI」の実現、すなわち、人間にとっての心地良さに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適の実現に向けた諸施策を推進してまいります。また、最優先課題であります安全管理の徹底に取り組むとともに、コンプライアンスやリスク管理の重要性について各従業員に再徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、今後とも企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス	
■ 連結業績の概要	2	三菱ケミカルホールディングスの概要	9
■ セグメント別業績	3	■ 財務諸表の概要	11
■ 各事業会社の活動・トピックス	5	■ 株式の状況	13
■ “KAITEKIの実現”		■ 会社概要	14
■ チャレンジ!! KAITEKI	7		

*「APTSIS」とは、Agility（俊敏に、とにかく速く）、Principle（原理原則・理念の共有）、Transparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、Sense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、Internationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、Safety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

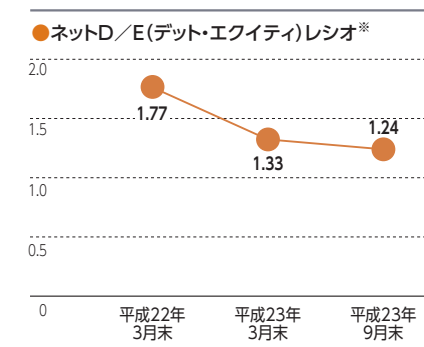
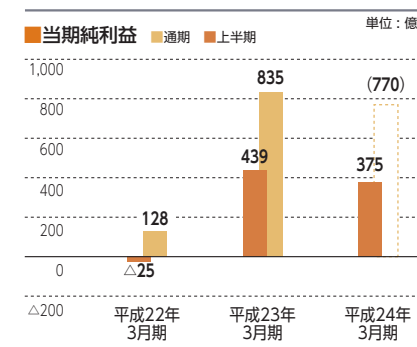
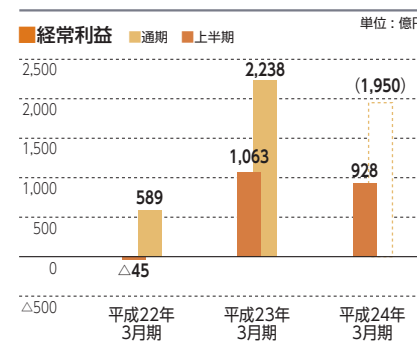
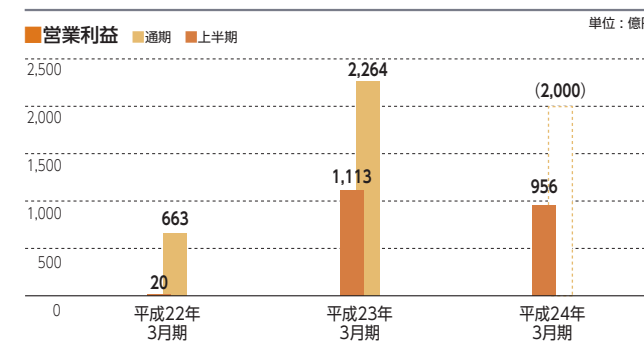
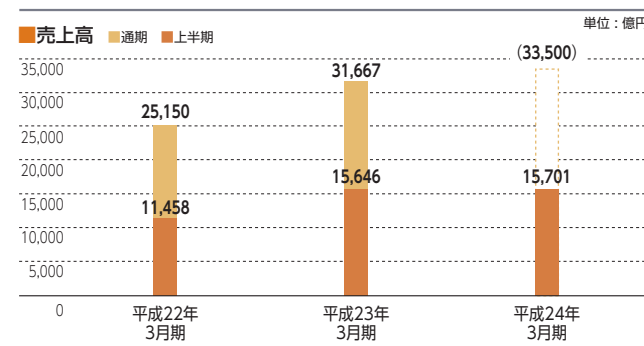
震災の影響等による厳しい事業環境の中、増収・減益となりました。

東日本大震災の影響や円高など、厳しい事業環境が継続

当上半期は、震災の影響に加え、原燃料価格が高水準で推移する中で、円高傾向が継続し、海外景気の下振れ懸念が強まるなど、厳しい事業環境となりました。当上半期の連結業績は、売上高は1兆5,701億円（前年同期比55億円増）となり、利益面では、営業利益は956億円（同157億円減）、経常利益は928億円（同135億円減）、当期純利益は375億円（同64億円減）となりました。





ネットD/Eレシオが0.09ポイント改善

総資産は、原燃料価格の上昇等に伴い、たな卸資産が増加した一方で、保有株式の時価下落に伴い投資有価証券が減少したこと、また、グループ内の余裕資金を有利子負債の削減に充てたことに伴い現金・預金等が減少したこと等により、3兆2,559億円（前期末比380億円減）となり、また、負債は、主に有利子負債の減少により、2兆1,012億円（同788億円減）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.24となりました。



*ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本
※（ ）内の数値は、平成23年11月1日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別業績

	単位:億円				三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイヨン			
機能商品	エレクトロニクス・アプリケーションズ 売上高: 1,524 (前: 805) 営業利益: 32 (前: 9) 売上高構成比: 4.4% 売上高増減: +719 (+88.3%) 営業利益増減: +23 (+255.6%)	デザイン・マテリアルズ 売上高: 6,575 (前: 3,268) 営業利益: 364 (前: 208) 売上高構成比: 21.5% 売上高増減: +3,307 (+101.5%) 営業利益増減: +156 (+75.0%)							エレクトロニクス・アプリケーションズ 《売上高》698億円(107億円減) 記録材料…DVD、外付けハードディスクの販売数量が減少 電子関連製品…ディスプレイ材料の販売数量が減少 情報機材…円高の影響により売上げ減少 《営業損益》△11億円(44億円減) 販売数量の減少により減益	デザイン・マテリアルズ 《売上高》3,385億円(116億円増) 食品機能材…順調に推移 電池材料…震災による代替需要が寄与 樹脂加工品…エンジニアリングプラスチック関連製品等の販売数量が増加 複合材…炭素繊維等の産業資材が堅調に推移 《営業利益》173億円(34億円減) 一部製品の販売数量の減少により減益	
	ヘルスケア 売上高: 5,049 (前: 2,518) 営業利益: 850 (前: 446) 売上高構成比: 15.7% 売上高増減: +2,531 (+100.5%) 営業利益増減: +404 (+90.6%)								ヘルスケア 《売上高》2,467億円(51億円減) 医薬品…震災の影響による前期末の一時的な受注増の反動等により売上げ減少 診断製品…前年同期並み 臨床検査…前年同期並み 《営業利益》397億円(49億円減) 販売費及び一般管理費の増加等により減益		
素材	ケミカルズ 売上高: 8,954 (前: 4,352) 営業利益: 529 (前: 218) 売上高構成比: 29.6% 売上高増減: +4,602 (+105.8%) 営業利益増減: +311 (+142.7%)	ポリマーズ 売上高: 7,311 (前: 3,627) 営業利益: 550 (前: 242) 売上高構成比: 22.4% 売上高増減: +3,684 (+101.6%) 営業利益増減: +308 (+127.3%)							ケミカルズ 《売上高》4,661億円(309億円増) 基礎石化製品…エチレン生産量40万1千トン(28.9%減) 合成繊維原料…テレフタル酸の市況の大幅な上昇 炭素製品…コークスの原料炭の価格上昇に伴う売上げ増加 《営業利益》193億円(25億円減) 原料炭とコークスの価格差の縮小等により減益	ポリマーズ 《売上高》3,519億円(107億円減) 合成樹脂…震災によるポリオレフィン等の販売数量の大幅な減少 《営業利益》232億円(9億円減) 輸出価格の低迷により減益	
	その他 売上高: 2,252 (前: 1,074) 営業利益: 45 (前: 5) 売上高構成比: 6.1% 売上高増減: +1,178 (+109.7%) 営業利益増減: +40 (+800.0%)								その他 《売上高》969億円(104億円減) エンジニアリング事業…順調に推移 物流事業…震災の影響により売上げ減少 《営業利益》16億円(10億円増) 一部事業の受注件数の増加により増益		

()内の数字は対前年同期比

各事業会社の活動・トピックス

三菱化学

機能商品

- 発光層を塗布プロセスで成膜した有機EL素子について、パイオニアと共同で世界最高水準の発光効率52ルーメン/ワットと輝度半減寿命2万時間を達成（本年5月）
- 三菱化学メディアが、Verbatimブランドで調光機を使わず明るさを3段階に切換え可能な昼白色（寒色系白色）と電球色（暖色系白色）の4タイプのLED電球の販売を開始（本年7月）



LED電球

ヘルスケア

- 三菱化学メディエンスが、心筋マーカーであるトロポニンIの測定試薬「パスファーストcTnI」について、米国FDAより承認取得（本年6月）



体外診断用検査機器「パスファースト」

素材

- 生分解性プラスチック「GS Pla」の植物原料化に向けて、バイオアンバー社（カナダ）及び三井物産と提携に合意（本年4月）
- 化学品の植物原料化の研究開発について、豊富な実績と特許を持つジェノマティカ社（米国）と戦略的提携に合意（本年4月）
- ポスコグループ（韓国）及び三菱商事と共同で、ニードルコークスの製造・販売合弁会社を韓国に設立することに基本合意（本年9月）

その他

- 歩行動作解析サービス「見守りゲイト」の歩行分析計等を一般医療機器として販売開始（本年5月）



歩行分析計「ゲイト君」

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- 持田製薬と共同で、抗うつ薬「レクサプロ錠10mg」の販売を開始（本年8月）
- ヤンセンファーマと共同で、関節リウマチ治療薬「シンポニー皮下注50mgシリンジ」の販売を開始（本年9月）
- 日本初の経口の多発性硬化症治療薬「イムセラカプセル0.5mg」について、多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制を効能・効果として製造販売承認を取得（本年9月）
- C型慢性肝炎治療薬「テラビック錠250mg」について、製造販売承認を取得（本年9月）



シンポニー皮下注50mgシリンジ

三菱樹脂

機能商品

- 坂出工場において、アルミナ繊維「MAFTEC」の新ライン2系列を増設することを決定（本年4月）
- 白鶴酒造と共同で、業界初となる清酒用ハイバリアPETボトルの商品化に成功（本年7月）

- 長浜工場において、リチウムイオン二次電池用セパレータ「セパレント」の新ラインを増設することを決定（本年8月）



リチウムイオン二次電池用セパレータ「セパレント」

三菱レイヨン

機能商品

- 大竹事業所において、MRC-SGLプレカーサーが、BMW向けの炭素繊維の原料であるポリアクリロニトリル（PAN）系炭素繊維プレカーサーの量産を開始（本年4月）
- 中国において、北京碧水源科技社（中国）と、下排水処理用中空糸膜の製造・販売等の合弁会社を設立（本年7月）
- 日本錬水及びシンガポールの公共事業庁と、分離膜を用いた排水再利用技術を共同開発することで基本合意（本年7月）
- 三菱レイヨン・クリンスイが、一般消費者向けに浄水器「クリンスイ」のレンタルサービスを開始（本年9月）



プレカーサーを使用するBMW i3（コンセプト）



レンタルサービス専用「クリンスイCR001」

素材

- サウジ基礎産業公社（サウジアラビア）と、MMAモノマー及びアクリル樹脂成形材料を製造する合弁会社の設立に基本合意（本年5月）

グループの本社移転について

当社は、平成24年5月（予定）より順次、当社グループの本社移転を行う方針を決定しました。

本年度からスタートした中期経営計画「APTSIS 15」の基本戦略である「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」のためには、現在分散している当社と事業会社の本社オフィスを集約することにより、これまで以上にグループとしてのシナジーの発現を加速させるとともに、効果的・効率的な組織運営を図ることが不可欠と判断いたしました。

新オフィスには、東京に本社を置く当社、三菱化学、三菱樹脂及び三菱レイヨンの本社オフィスを集約し、大阪と東京に本社を置く田辺三菱製薬については、その一部を移転する予定です。

移転先：東京都千代田区丸の内一丁目1番1号「パレスビル」（2012年1月竣工予定）



パレスビル（左）完成イメージ

東日本大震災 被災地支援について

当社グループでは、東日本大震災で被災された皆様と被災地に対し、次のような支援を実施しました。

支援物資の送付

携行型太陽電池充電器200台、医薬品、食品包装用ラップフィルム10万本、ソーラー充電式LEDライト2,000個など寄付金

グループ全体で約3億円の義援金を拠出
グループ各社で従業員による募金活動を実施し、総額約5千万円を寄付

従業員が行うボランティア活動の支援

本年7月より、グループ各社の従業員が被災地でボランティア活動を行う機会を提供するとともに、ボランティア費用を負担

復興支援プロジェクトへの参加

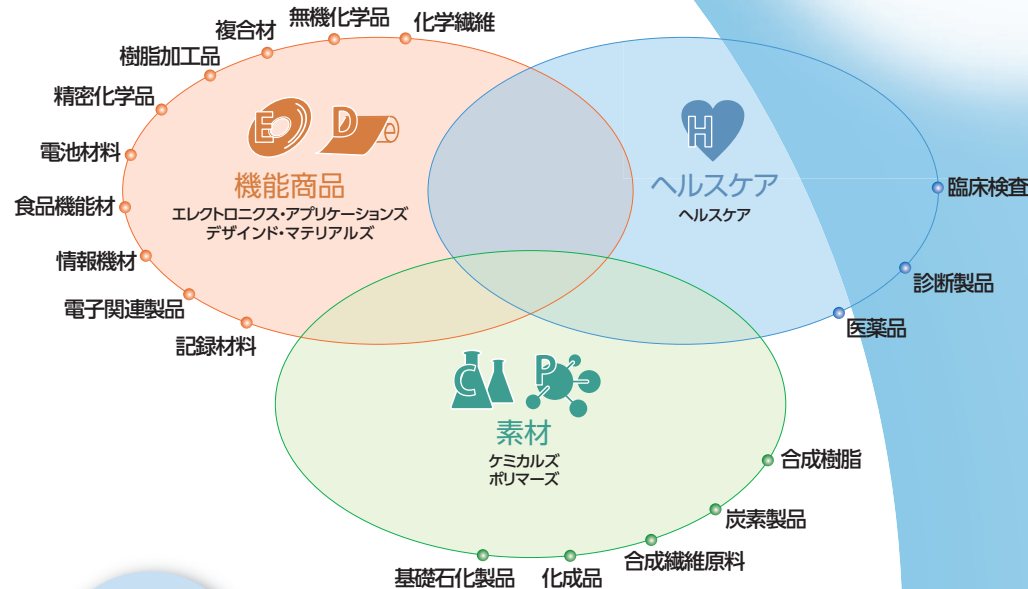
被災地の人づくりや経済活性化に役立てるプラットフォームの構築を目的として、経済同友会が立ち上げた「IPPO IPPO NIPPON プロジェクト」に参加

当社グループでは、引き続き被災された皆様と被災地への支援を実施してまいります。

“KAITEKIの実現”

「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」

私たち三菱ケミカルホールディングスグループは、グループ理念のもと、機能商品・ヘルスケア・素材の3つの事業分野においてそれぞれの事業会社が自律的に事業活動を行いながら、グループ全体としてKAITEKIの実現を目指し、協奏していきます。



Good Chemistry for Tomorrow

人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。

KAITEKIの実現

KAITEKIとは、当社グループが21世紀において世界に発信すべきと考える価値。

それは、人間にとっての心地良さに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真に持続可能な状態を意味します。

当社グループは、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)の3つを企業活動の判断基準として、KAITEKIの実現を目指していきます。



チャレンジ!! KAITEKI 01

太陽光に近い白色光で自然な色合いを実現 高機能白色LEDで“KAITEKI”照明事業をグローバルに展開中

自然光に近い白色LEDを開発

白熱電球に比べて、消費電力が8分の1以下で寿命が40倍のLED照明は、約10兆円といわれる世界の照明市場で注目されています。

三菱化学では、長年培った材料技術を活かし、従来の白色LEDとは異なる、より自然光に近い白色光を実現できる白色LEDを開発しました。

世界初となる高品質の結晶基板を開発

さらに三菱化学は、次世代の超高輝度白色LEDを創るため、白色LEDの材料の一つである結晶基板の開発に着手し、液相法で世界初となる高品質の窒化ガリウム基板の開発に成功しました。この窒化ガリウム基板を使ったLEDチップ(紫発光チップ)に、同じく同社が開発した赤・緑・青の蛍光体を組み合わせることで、光の色味を自在に表現することが可能となります。

また、この紫発光チップを使うことでLEDの輝度を高めることができたようになったことから、三菱化学及び三菱樹脂では、強い光にも劣化しない封止材やパッケージ材料の開発にも取り組んでいます。

Verbatim(バーベイタム)ブランドによるグローバル展開

三菱化学では、平成21年から本格的に白色LED照明事業に参入しています。昨年9月の欧州、本年2月の米国、豪州に続き、本年7月に日本において、Verbatim(バーベイタム)ブランドによるLED電球の販売を開始し、白色LED照明事業をグローバルに展開しています。

高機能白色LEDの ここが KAITEKI

より自然光に近い 白色光を実現

まるで太陽光で見えるような
自然な色合い

色温度や明るさを 自由にコントロール

季節や時間帯、利用目的など、
光で暮らしのシーンに合った快適な空間を
自由に演出

環境にやさしい

省電力で長寿命、
さらに環境負荷物質の低減にも貢献



白色LED

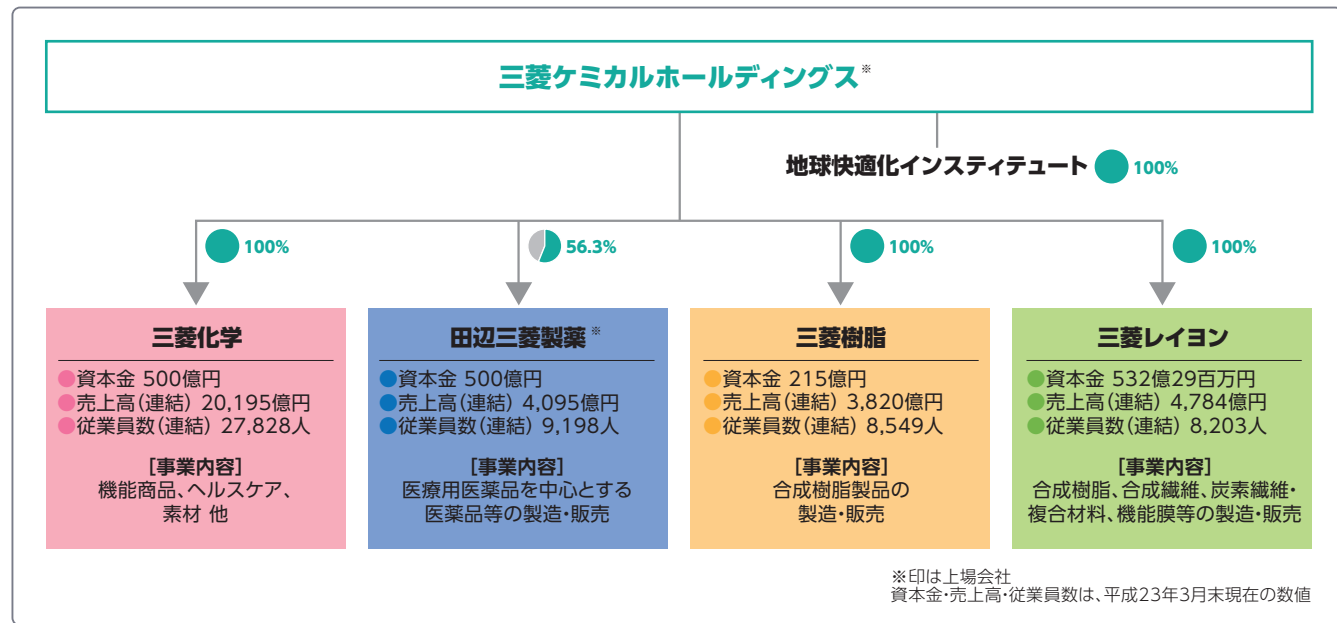
使用例(本社ビル1階 KAITEKI CAFE)

三菱ケミカルホールディングスの概要

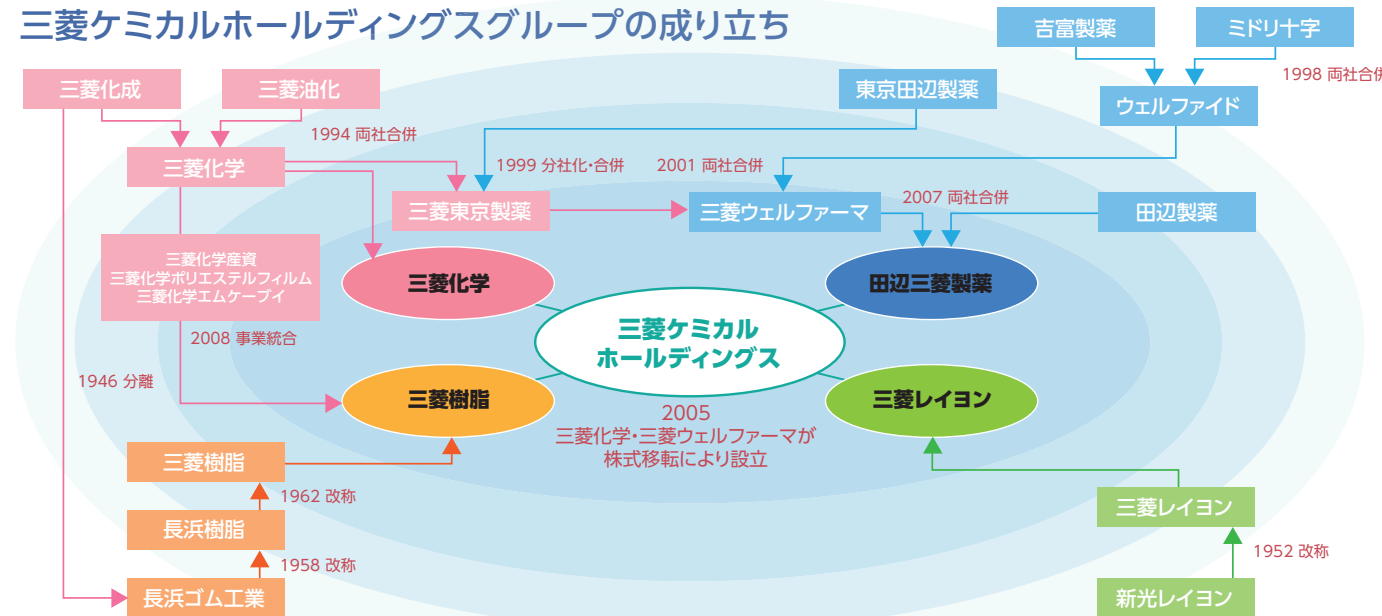
4つの基幹事業会社を中心とする純粋持株会社

当社グループは、ポートフォリオ・マネジメント機能と個別事業経営機能とを完全に分離した純粋持株会社制を導入しており、純粋持株会社である当社のもと、基幹事業会社である三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂及び三菱レイヨンの4社を中心に、機能商品、ヘルスケア及び素材の3つの事業分野において事業活動を行っています。その中において、当社は、グループ全体の戦略策定、経営資源の最適配分、事業経営の監督等を通じて、企業価値向上のための経営諸施策を積極的に推進しています。

また、当社は、地球環境問題をはじめ、エネルギー・資源の枯渇、水・食糧危機、そして健康問題など、さまざまな問題を解決し、20年から50年後の地球にとって快適な状態を実現するための研究を行う機関として、地球快適化インスティテュートを平成21年4月に設立しました。同社では、世界の学術機関、国立研究所、ベンチャー企業、民間研究機関と提携・協力し、「KAITEKI」を科学の力で実現していくことをミッションとしています。



三菱ケミカルホールディングスグループの成り立ち

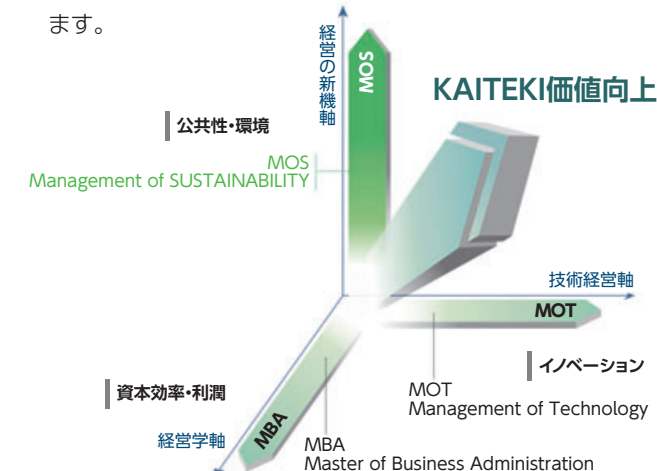


KAITEKI経営の推進

当社グループは、地球規模での課題解決が求められる中で、企業が持続的に発展していくためには収益追求だけではない新しい経営の機軸が不可欠であるとの考えのもと、地球・人類・社会の持続可能性への貢献度を数値化して管理する「MOS (Management of SUSTAINABILITY) 指標」を導入しています。

また、営業利益や総資本利益率など財務指標を用いて資本効率を重視する経営学的な軸(MBA軸)と、革新的な技術を能動的に生み出すための技術経営的な軸(MOT軸)に、「MOS指標」による経営の新機軸を加えた3つの機軸に沿ってグループの経営を行っており、その経営手法を「KAITEKI経営」と名づけています。

当社グループは、この「KAITEKI経営」を通して、当社グループの企業価値、すなわち「KAITEKI価値」の向上を図っていきます。



財務諸表の概要

連結貸借対照表

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [平成23年9月30日現在]	前期 [平成23年3月31日現在]
(資産の部)		
流動資産	14,072	13,966
現金・預金	1,071	1,301
受取手形・売掛金	5,833	5,971
たな卸資産	5,435	4,850
その他	1,758	1,866
貸倒引当金	△ 25	△ 24
固定資産	18,486	18,973
有形固定資産	10,634	10,883
投資有価証券	3,395	3,634
のれん	1,491	1,548
その他	2,964	2,906
資産合計 Point 1	32,559	32,940

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主にグループ内の余裕資金を有利子負債の削減に充てたことに伴い、現金・預金等が減少したことにより減少しています。

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [平成23年9月30日現在]	前期 [平成23年3月31日現在]
(負債の部)		
流動負債	10,710	11,455
支払手形・買掛金	4,021	3,784
短期金融債務	4,040	4,766
その他	2,649	2,905
固定負債	10,301	10,344
長期金融債務	8,290	8,279
その他	2,010	2,064
負債合計 Point 2	21,012	21,800
(純資産の部)		
株主資本	8,409	8,087
資本金	500	500
資本剰余金	3,175	3,175
利益剰余金	4,841	4,519
自己株式	△ 107	△ 107
その他の包括利益累計額	△ 475	△ 505
新株予約権	7	6
少数株主持分	3,605	3,550
純資産合計	11,547	11,140
負債及び純資産合計	32,559	32,940

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に短期金融債務が減少したことにより減少しています。

連結損益計算書

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [自平成23年4月 1日 至平成23年9月30日]	前上半期 [自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日]
売上高	15,701	15,646
売上原価	11,938	11,787
販売費・一般管理費	2,806	2,745
営業利益	956	1,113
営業外収益	162	166
営業外費用	190	216
経常利益	928	1,063
特別利益	70	35
特別損失	165	160
税金等調整前四半期純利益	833	938
法人税、住民税及び事業税	237	226
法人税等調整額	24	52
少数株主利益	196	219
四半期純利益	375	439

Point 3 **特別利益・特別損失**
特別利益は、固定資産売却益の増加等により増加しています。特別損失は、東日本大震災による損失の計上等により増加しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位:億円)	
	当上半期 [自平成23年4月 1日 至平成23年9月30日]	前上半期 [自平成22年4月 1日 至平成22年9月30日]
税金等調整前四半期純利益	833	938
減価償却費	704	717
たな卸資産	△ 565	△ 56
営業債権債務他	△ 76	△ 159
営業活動によるキャッシュ・フロー	895	1,440
有形・無形固定資産取得	△ 530	△ 531
有価証券・投資有価証券取得	△ 236	△ 687
その他	637	512
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 129	△ 707
有利子負債	△ 632	△ 520
配当金他	△ 205	△ 103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 838	△ 623
現金・現金同等物に係る換算差額	14	△ 71
現金・現金同等物の増減	△ 58	38
現金・現金同等物の期首残高	1,437	1,125
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	7	7
現金・現金同等物の四半期末残高	1,386	1,172

Point 4 **営業活動によるキャッシュ・フロー**
営業活動によるキャッシュ・フローは、主にたな卸資産の増加等に伴う運転資金の増加により収入が減少しています。

株式の状況

株式の状況 (平成23年9月30日現在)

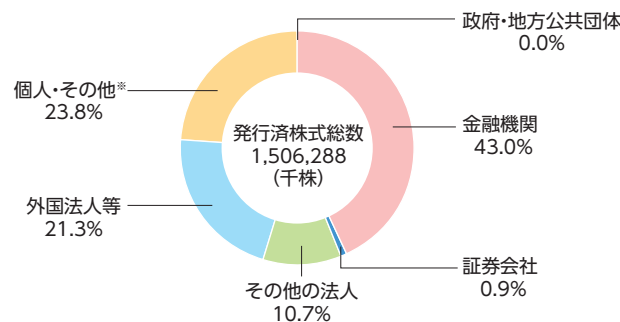
会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	197,920名

大株主 (平成23年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	84,897	5.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	68,798	4.5
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.2
武田薬品工業株式会社	51,730	3.4
日本生命保険相互会社	49,429	3.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	36,479	2.4
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	27,735	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	21,241	1.4
三菱UFJ信託銀行株式会社	20,289	1.3

※上記のほか、当社が自己株式として30,242千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有していません。

所有者別株式分布の状況 (平成23年9月30日現在)



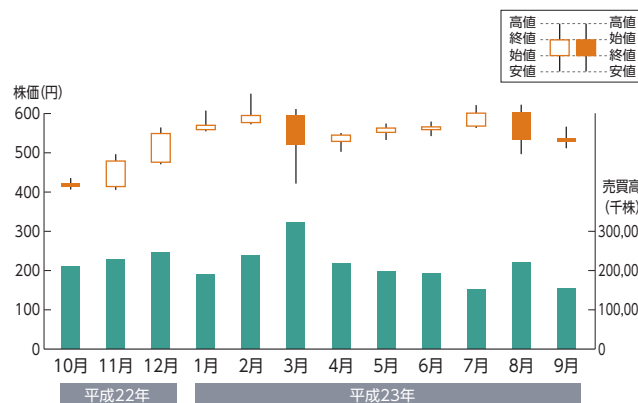
※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	平成22年 3月期	平成23年 3月期	平成24年 3月期
中間	4	5	5
期末	4	5	(5)
合計	8	10	(10)

※()内の数値は、平成23年11月1日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>

当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

会社概要

会社概要

商号	株式会社三菱ケミカルホールディングス (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地	〒108-0014 東京都港区芝四丁目14番1号 (三菱ケミカルホールディングスビル) 電話 03-6414-4800
資本金	500億円

取締役 (平成23年9月30日現在)

富澤 龍一	取締役会長	
小林 喜光	代表取締役 取締役社長	
吉村章太郎	代表取締役 専務執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担
露木 滋	取締役 専務執行役員	経営戦略室、 広報・IR室(広報)分担
土屋 裕弘	取締役	
吉田 宏	取締役	
鎌原 正直	取締役	

監査役 (平成23年9月30日現在)

山口 和親	常勤監査役	
近藤 和利	常勤監査役	
西田 孝	常勤監査役	
鶴田 六郎	監査役	弁護士
水嶋 利夫	監査役	公認会計士

※西田 孝、鶴田六郎、水嶋利夫の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

執行役員 (平成23年9月30日現在)

池浦 富久	常務執行役員	グループ基盤強化室 (RD、IP、生産技術担当)
大平 教義	常務執行役員	人事室長
唐津 正典	常務執行役員	グループ基盤強化室 (購買、業務革新担当)
小林 貞人	常務執行役員	グループ基盤強化室 (製造、RC担当)
津田 登	常務執行役員	内部統制推進室長 総務室分担
		コンプライアンス推進統括執行役員
山本 巖	常務執行役員	グループ基盤強化室 (機能商品、事業開発担当)
浦田 尚男	執行役員	CEOオフィス部長
奥川 隆生	執行役員	グループ基盤強化室 (マーケティング&エリア戦略担当)
小林 基男	執行役員	グループ基盤強化室 (情報システム担当)
田中 良治	執行役員	グループ基盤強化室 (マーケティング&エリア戦略担当)
中田 章	執行役員	グループ基盤強化室 (RD、IP、生産技術担当)
春山 豊	執行役員	グループ基盤強化室 (製造、RC担当)
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長
八島 英彦	執行役員	グループ基盤強化室部長

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報 (IR情報) をよりわかりやすく株主の皆様
にナビゲーティング (道案内) していきたいという意味を込めております。

株主様向けアンケート

株主の皆様の声をお聞かせ下さい

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答下さい。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **4188**

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索して下さい。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信して下さい(タイトル、本文は無記入)。アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝 (図書カード500円)
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ **TEL: 03-5777-3900** (平日10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 **MAIL: info@e-kabunushi.com**

単元未満株式の買取・買増制度について

当社では、単元未満株式 (500株未満の株式) の買取のほか、買増を請求できる制度も導入しておりますので、単元未満株式をご所有の株主様は、ご利用をご検討下さい。

なお、ご利用の際は、証券会社の口座でお持ちの株式については、お取引先の証券会社でお手続下さい。また、特別口座でお持ちの株式については、当社の特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行 証券代行部までお問い合わせ下さい。